

序　　議　　録

招集年月日		令和 5 年 11 月 1 日（水）						
開会時刻		午前 9 時 30 分		閉会時刻		午前 11 時 03 分		
開催場所		401・402 多目的会議室						
出席の状況（○出席者、代は代理出席）								
1	市長	○	2	副市長	○	3	教育長	○
4	総務部長	○	5	未来政策部長	○	6	財務部長	○
7	市民生活部長	○	8	健康福祉部長	○	9	産業部長	○
10	建設部長	○	11	建設部理事	○	12	教育部長	○
13	こども部長	○	14	議会事務局長	○	15	会計管理者	○
代理出席者								
職務のため出席した者		伊達総合支所長、梁川総合支所長、保原総合支所長、霊山総合支所長、月舘総合支所長、危機管理担当参事、健康対策担当参事、農業委員会事務局長、行政委員会事務局長（代）、人事課長、秘書広報課長、デジタル変革課長、総合政策課長、財政課長、総務課長						
案件説明のため出席した者								
付 議 事 案 協 議 事 項		1. 開会						
		2. 議題 (1) 令和 5 年伊達市議会定例会第 6 回定例会議（12 月定例会議）提出議案報告について【総務部】						
		3. 報告 (1) 若手係長及び採用 10 年目職員による市長との意見交換研修について【総務部】 (2) 現地から学ぶ政策形成能力育成研修について【総務部】 (3) 令和 6 年度予算編成方針について【財務部】 (4) 令和 5 年度財政収支見通しについて【財務部】						
		4. 各部からの情報提供：議会事務局						
		5. その他 (1) 特別職主要業務予定、各部主要業務・行事予定（11 月上旬半期）						

	(2)その他 6. 閉会
--	-----------------

会議の経過・結果

1. 開会

2. 議題

(1) 令和 5 年伊達市議会定例会第 6 回定例会議（12 月定例会議）提出議案報告について

各担当部長が資料に基づき説明した。

3. 報告

(1) 若手係長及び採用 10 年目職員による市長との意見交換研修について

総務部長が資料に基づき説明した。

(2) 現地から学ぶ政策形成能力育成研修について

総務部長が資料に基づき説明した。

(3) 令和 6 年度予算編成方針について

財務部長が資料に基づき説明した。

(4) 令和 5 年度財政収支見通しについて

財務部長が資料に基づき説明した。

【市長より】

厳しい財政に対応していくには、事務の効率化や D X の推進などが必要である。職員一人一人が事務の必要、不必要の見直しを行い、業務に取り組んでほしい。そうすることで、時間に余裕ができ、企画立案に力を向けることができる。また、外部委託の必要性を改めて確認し、自分たちでできるものは自分たちでやるなど、メリハリのある予算執行に努めてほしい。

先日、伊達橋の仮橋開通式があった。伊達橋が地震の影響で通行不可となつてから 1 年 7 カ月、市民は大変不便な思いをした。仮橋は 20 トン車まで通行可能なので、今までの経済活動や日常が戻ってくることを期待される。

また、C C A C の交流施設やおての里きてみ～なのオープニングイベントも開催された。今後はこれらの施設をどのように使っていくか、地元との連携・協議を大事にしながら、活用していきたい。

10 月 28 日には伊達市青少年育成推進大会が開催された。各中学校代表 2 名の発表があったが、大変素晴らしい発表だった。「大人が変われば子どもも変わる」という言葉があるが、子どもたちのほうが先に変わってきている印象を持った。子どもは大人が思っている以上にしっかりとした意見や考えを持っているので、施策や条例に反映できるように子どもの意見をしっかり聞いていきたい。

市町村対抗ソフトボール大会の第 10 回記念大会においては、伊達市チームが優勝した。監督は、大きな目標に向かって「一戦必勝」とよく言っていた。仕事においても、大きな目標に向かって、目の前のことをひとつひとつ全力で対応して、必要、不必要を判断しながら進めていってほしい。

10：25 市長退席

4. 各部からの情報提供：議会事務局

- ・伊達市議会業務継続計画（議会 B C P）について

5. その他

(1) 特別職主要業務予定、各部主要業務・行事予定（11 月上半期）

(2) その他

- ・産業部長が 11/14 に行われる GAP の講演会について周知した。
- ・梁川総合支所長がふるさと秋まつりについて周知した。
- ・教育部長が小中学校におけるインフルエンザ及び新型コロナウイルス感染症の感染状況について報告した。

【副市長より】

10 月 25 日に福島県副市長会議が開催された。いわき市の副市長（県から出向）から、り災証明事務の事務負担軽減について情報共有があった。

いわき市においては、今回の災害のり災証明事務において、N T T 東日本のシステムを採用した。タブレットによるデータの収集・写真の取り込みなどを行い、その内容を他部署間で共同利用することによって、大きく事務が軽減された。また、タブレットで災害の程度も判定できるようになっているため、経験年数が若い職員でも対応が可能だった。バッテリーや通信状態に一部課題も見られたが、迅速に対応しなければいけない環境下で、非常に大きな効果を得られたとのことだった。

また、いわき市の内郷地区では線状降水帯の影響で一気に被害を受けたため、市民からの不安や要望の電話等が多かった。災害対策本部は早期に設置し、災害ボランティアの確保や災害ごみについての周知もできるだけ早めに行ったほうが良い。避難情報についても、空振りを恐れずに早めの対応が必要とのことだった。

それから、南相馬市の副市長（国から出向）からは、避難所運営は自治体だけでは限界があり、今後は、もっと地域の力を借りて、地域で運営を行い、自治体がサポートするような仕組みになるように検討していくべきとのこともあった。

6. 閉会